

五七二  
明治十六年四月  
三十六年

右忠三郎カ被告事件ニ付明治十六年四月廿一日高梁治安裁判所ニ於テ岡山輕罪裁判所カ銃砲取締規則ニ違犯セシ事實アリト認メ明治五年第二百八十二號布告ニ依リ賣渡タル獵銃ヲ取上ケ五拾錢ノ科料ニ處スト言渡タル裁判ヲ不當ナリトシ檢察官警部補代理巡查樽崎義重ハ上告セリ爰ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ本案銃砲取締規則違犯者ハ明治五年第二百八十二號布告ニ依リ罰スヘキ五拾錢ノ科料ニ止ル違警罪ノ刑ナリトス其違警罪ノ處分ニ對シテハ明治十四年第四十四號布告ヲ以テ總テ上訴ヲ許サ、ルモノナルニ因リ成立サル上告ナリトス  
以上ノ理由ニ基キ本件上告ヲ棄却スル者也  
第一千四百四十五號

○判文(烟草稅犯則) 明治十六年三月十四日上告  
同 十七年四月三十日發付

三重縣伊賀國阿拜郡馬場村  
平民農業兼旅館飲食店營業

西川清右衛門

明治十五年十二月  
四十一年六月

右清右衛門カ被告事件ニ付明治十五年十二月十一日上野治安裁判所ニ於テ安濃津輕罪裁判所カ烟草稅則違犯ノ事實アリト認メ同則第三條及同第七條ニ依リ二拾五圓ノ罰金ト拾六錢ノ科料トヲ併科スト言渡タル裁判ヲ不當ナリトシ檢察官警部補宮原小三郎ハ上告

セリ其要領ハ營業鑑札ヲ受ケヌ賣買シタルニ付烟草稅則第三條ニ依リ罰シタルハ相當ナルモ無印紙賣出タルヲ以テ罰スヘキ同第七條ノ法文ハ烟草營業者ノ無印紙賣出シタル者ヲ罰スヘキモノコト本案ノ如キ營業者ニアラサル者ヲ罰スヘキ限ニ非ルニ原裁判所カ無鑑札營業ノ罰ト無印紙賣出タルノ罰トヲ併科シタルハ摺律錯誤ナリト云フニアリ  
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ  
上告ノ主點ハ無印紙烟草賣出シタル廉ニ付拾六錢ノ科料ヲ併科シタルハ不當ナリト云フニアリテ其罰タルヤ拾六錢ノ科料ニ止ル即チ違警罪ノ刑ナリトス然ラハ則違警罪ノ刑ニ付テハ明治十四年第四十四號布告ニ依リ上訴ヲ許サ、ルモノナレハ成立タル上告ナリトス  
以上ノ如クナルヲ以テ本件上告ヲ棄却スル者ナリ  
第一千四百四十六號

○判文(監視規則犯) 明治十六年三月十五日上告  
同 十七年四月三十日發付

和歌山縣紀伊國名草郡岡町  
村平民

竹田巳之助

明治十五年十二月  
十六年三月生

右巳之助カ監視規則違犯被告事件ニ付明治十五年十二月廿三日大坂輕罪裁判所ニ於テ刑法第五百五十五條ニ依リ同第八十條第二項ニ照シ本刑ニ二等ヲ減シ十一日ノ重禁錮ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事補阪村善ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ該事件タル被告カ明

五七三



治十五年五月十五日輕罪ノ刑ニ處セラレタル以前ノ犯罪ナルヲ以テ刑法第百二條ヲ適用スヘキモノナルニ原裁判玆ニ出サルハ違法ナリト云フニ在テ對手人タル被告已之助ハ答辨セ

愛ニ大審院ニ於テ法式ヲ履踐シ之レヲ審案スルニ本案ノ如キ盜罪先キニ發シ餘罪タル本件ノ發覺シタルト明確ナル事件ニ於テハ執行官即チ檢事ハ刑法第百二條ニ依リ刑期ヲ加除シテ執行ヲナシ得ヘキモノニシテ刑法第百二條ハ必スシモ裁判官ノ宣告ヲ要セサルヲ得スト云フ可キモノニアラス又執行上ニ關シ利害ノ及ホス可キモノニアラサレハ裁判官ニ於テ該條ヲ適用セサリシ迎之ヲ破毀ノ原由ト爲テ得サルモノト判定ス

右之理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ハ棄却スルヲ言渡スモノナリ

第千四百四十七號

○判文(賭博) 明治十六年十二月三日上告

同 十七年四月三十日發付

培玉縣武藏國北埼玉郡内田

ケ谷村四十四番地平民

金久保 幸助

明治十六年十一月

五十二年七月

右幸助カ賭博被告事件ニ付明治十六年十一月十日浦和輕罪裁判所熊谷支廳ニ於テ刑法第三百六十一條ニ依リ重禁錮二月二十日ニ處シ罰金七圓ヲ附加スト言渡シタル闕席裁判ヲ不當ナリトシ被告幸助ハ上告ヲ爲シ原裁判所檢事補高橋良榮モ亦附帶上告ヲ爲シテテ被

告ハ該上告ヲ駁下ケタルヲ以テ玆ニ檢察官ノ附帶上告ニ對シ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ判決ヲ爲ス左ノ如シ

原檢察官附帶上告ノ旨趣ハ闕席裁判言渡書ニハ治罪法第三百十六條ニ因リ故障ヲ爲スヲ得ヘキヲ及ヒ其期限ヲ記載スヘキニ原裁判所カ之ヲ記載セサルハ越權ノ處分ナリト論告スレモ治罪法第三百十六條末項ニ若シ其告知又ハ記載ナキ時ハ通常ノ規則ニ從ヒ其告知アルマテ上訴期限ノ經過ヲ停止ストアレハ原裁判所ニ於テ更ニ成規ニ從ヒ之カ告知ヲ爲シ以テ其不備ヲ補フヲ得ヘキモノナレハ之ヲ越權ノ處分トシテ原裁判ヲ破毀スルノ限ニ非ストス因テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ基キ本件上告ヲ棄却スルモノ也

第千四百四十八號

○判文(失火) 明治十六年五月二日上告

同 十七年四月三十日發付

長崎縣肥前國東松浦郡大杉

村平民

平野 峰 作

明治十六年四月

三十九年

右峰作カ被告事件ニ對シ明治十六年四月四日唐津治安裁判所ニ開キタル長崎輕罪裁判所佐賀支廳ニ於テ被告ハ火ヲ失シテ東松浦郡岸山村字高松官林ヲ燒燬シ自訴シタルモノト認定シ刑法第四百九條ニ照シ二圓以上二拾圓以下ノ罰金刑法第八十五條第七十條ニ依リ一等ヲ減シ其範圍内ニ於テ罰金二圓五拾錢ニ處シ其犯罪ノ用ニ供シタル摺付木壹箇石炭ノ小出シ



壹箇燃切木等ハ刑法第四十四條ニ依リ官ニ沒收ナル旨言渡シタル裁判ニ對シ檢事代理唐津警察署長警部君島沙ハ上告ヲ爲セリ其要旨ハ犯罪ノ初發巡查畑繁カ現場ニ於テ既ニ被告人平野峰作ノ所爲ナルコトヲ認知シ證據物件ヲ差押ヘ歸報ニ際シ被告ハ本屬戸長役所ヘ自首シタルモノナルコト其自首ヲ有効ノモノトシ減輕ヲ與ヘシハ擬律錯誤ノ裁判ト云フコアリ被告人答辨ノ旨趣ハ煙草火ニ焚置タル火不斗風立シヨリ官林ニ延燒シタルハ實コ火ヲ失シタルノ罪眼前ニシテ恐入タルコト悔悟シ消防ニ盡力漸ク鎮火スルヤ否ヤ前後ヲ顧ミテ巡查詰所ヘ走り付タルニ巡查官林燒失ノ現場ヘ出張ノ由ニテ不在ニ付其歸所ヲ待テ受頓末ヲ自首シタル譯ニテ巡查畑繁ニ於テ業ニ既ニ犯罪者ノ被告人タルヲ覺知スルノ理由ナシ因テ原裁判ハ適法ノ判定ナリト云フコアリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行スルコ立會檢事武内維積ハ原檢察官ノ上告不當ナル旨ノ意見ヲ陳述シ且又付帶ノ上告ヲ爲セリ其旨趣ハ原裁判所カ摺付木石炭ノ小出シ燃切木等ヲ犯罪ノ用ニ供シタルモノトシテ沒收シタルハ不法ナリ何トナレハ失火ノ罪ハ疎虞懈怠ヨリ成ルモノコトシテ其用ニ供ス可キモノ絶テ之アルノ理ナケレハナリ因テ此點ノ擬律ハ直ニ更正ヲ求ムト云フコアリ

原裁判書類ニ就キ原檢察官ノ上告旨趣如何ヲ案スルニ巡查畑繁ノ報告書ニ小林理忠太ニ就キ探偵スルニ云々火ノ原由ヲ察スルニ峰作ナル者ノ所意〔本ノ〕ト心得ル旨申立ルニ依リ云々トアルノミコト果シテ峰作カ自首スル以前既ニ該失火ヲ爲シタル者ハ峰作ナリト認メシ證據アルコトアラス要スルニ承審官カ事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサレハ本件上告ノ旨趣ハ

治罪法第四百十條第十項ニ適當ナル破毀ノ原由コトアラストス又付帶上告ノ旨趣ヲ案スルニ其論旨ノ如ク失火ハ疎虞懈怠ニ出ルモノニシテ其根原ハ摺付木等ヨリ出シ火ナリトモ其摺付木等ヲ犯罪ノ用ニ供セシコトハアラサルヲ以テ刑法第四十四條ニ依リ沒收スヘキノ限ニアラス則此點ハ治罪法第四百十條第十項ニ適當ナル上告ノ原由ナリトス仍テ治罪法第四百三十一條ニ基キ原判文中沒收ニ係ル部分ヲ破毀シ直ニ之ヲ取消スモノ也

第千四百九號

○判文(官吏侮辱) 明治十六年四月五日上告  
同 十七年四月三十日發付

栃木縣下野國河内郡宇都宮

江野町寄留平民

横山 留吉郎

年齡不詳

明治十五年十二月廿二日栃木輕罪裁判所ニ於テ被告ハ佐藤文七カ被告事件ノ辨護中檢察官不都合ノ旨ト云ヒシハ刑ノ適用ニ付キ檢察官ノ意見不當又ハ前後齟齬セシトノ意ヨリ發シ故テ同官牛込喜一ヲ侮辱セシ言辭ナキモノト認定シ無罪ト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事補牛込喜一ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ抑公庭内ニ於テ辨論スルヤ必ス其言辭ヲ慎マサル可カラズ既ニ之ヲ慎ミ陳述シタルモノナレハ過失アルヘキ謂レナクシテ其故意ニ出テタルコト論ヲ待タズ况ンヤ被告ハ特ニ高聲ヲ以テシタルニ於テチヤ然ルニ原裁判所ニ於テ之ヲ故意ニアラスト判定シタルハ事實理由ノ齟齬アルモノナリト云フニ在リ對手人留吉郎ハ



原裁判ハ至當ナリトノ旨趣ヲ答辨セリ

五七八

爰ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行シ判決スルヲ左ノ如シ  
抑事實ノ認定ハ治罪法第四百二十六條第二項ノ規定ヲ以テ裁判官ノ職權ニ任從スル所ナレハ  
他ヨリ敢テ之ヲ批難スルヲ得サルモノトス然ルニ今ヤ上告論旨ハ原裁判官ノ認定シタル事  
實ヲ動サント試ムルニ在リテ治罪法第四百十條各項ノ規定ニ相當スル原由一モ之レナケレ  
ハ同法第四百廿七條ニ從ヒ本案上告ハ之ヲ棄却スルモノ也  
第千五百五十號

○判文(毆傷) 明治十六年十一月一日上告  
同 十七年四月三十日發付

神奈川縣南多摩郡長房村百  
三十九番地平民

野島伊三郎

明治十六年十月  
十九年生月不知

右伊三郎カ被告事件ニ付明治十六年十月九日横濱輕罪裁判所八王子支廳ニ於テ被告ハ小坂  
茂作外二名ヘ刃物ヲ以傷ヲ負セタルモノトシ刑法第三百一條第二項同第八十一條ニヨリ重  
禁錮九月ニ處スト旨渡シタル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ明治十六年八月三十一日夜南  
多摩郡上柵田村氷川神社ノ社前ヲ通行スルニ當リ同社内ニ爭鬪アリタリト聞及同社神樂堂  
ノ前ニ至リ見ルニ圓ヲサリキ兄枋木健次郎ノ雇人八五郎鐵藏ノ兩人カ毆打ニ遭ヒタル体ヲ  
見受タリ因テ同人等ヲ介抱セント欲スルモ其際被告ハ實父ノ急用ヲ帶ヒタレハ直ニ其場ヲ

立去リタリ爾後氷川神社ノ毆打事件ハ被告ガ干與セリト風評アルモ該事件ニ毫モ關セザレ  
ハ他日ノ嫌疑ヲ避ケンカ爲メ其旨八王子警察署ヘ届置キタリ而シテ八五郎鐵藏ナル者ハ本  
件ニ付最モ必用ナル者ナレハ喚問アラソク請ヒタレハ之ヲ採用セラレス單ニ被告ヲ犯罪  
者ナリトセラレタルハ治罪法第四百十條第七項第九項ニ適スル不法ノ裁判ナレハ破毀ヲ求  
ムト云ヒ尙追伸書ヲ以テ前意ヲ擴張スルコアリ

對手人檢事補瀧本了最ハ原裁判允當ニシテ上告趣旨不當ナル旨答辨セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百廿五條ノ定式ヲ履行シ判決スルヲ左ノ如シ

抑事實ノ認定ハ治罪法第四百二十六條第二項ヲ以テ裁判官ノ職權ニ任從セラレタル所ナレハ  
此認定ニ對シ他ヨリ之ヲ論難スルヲ得サルモノトス本案上告論旨ハ專ラ原裁判官ノ認定シ  
タル事實ニ立入タル而已ナラス試ニ一件書類ヲ讀過スルモ茂作等ヲ毆打セシメ明ヲカナリ  
又八五郎鐵藏ヲ喚問アラソク請ヒタレハ採用セラレサリシハ不法ナリト云フト雖此點  
モ亦裁判官ノ職權ニ屬スルモノナルカ故以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス到底上告ノ趣旨ハ治  
罪法第四百十條各項ニ相當スル原由アラサルモノニ付同法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告  
ハ棄却スルモノナリ

第千五百五十一號

○判文(毆傷) 明治十六年四月二十日上告  
同 十七年四月三十日發付

茨城縣常陸國東茨城郡下吉

影村士族船積問屋

五七九



木村 豐彦

明治十六年二月  
三十九年二月

右豊彦カ被告事件ニ付明治十六年二月二日水戸輕罪裁判所會議局ニ於テ檢察官ノ故障申立  
ヲ受理シ犯罪ノ證據充分ナラサル旨ノ豫審終結言渡ヲ取消シ更ニ被告事件ヲ毆打創傷ノ罪  
アリト認メ水戸輕罪裁判所ヘ移ストノ判決ニ服セス上告セル要領ハ自分カ煙草ヲ吸ハント  
シテ煙管ヲ出サントシタル所故決シテ打タルヲ無之ト豫審庭ニ於テ陳述セシテ會議局ハ之  
ヲ誤認シ煙管筒ヲ以テ茂兵衛ヲ毆打セシモノトセラレ又證人市川市右衛門カ銚田分署ニテ  
ノ申立ハ豫審庭ニ於テ變更シ登時茂兵衛ノ面部ニ傷ノアラザリシヲ證セリ又醫師ノ檢案  
書ハ其創傷ノ摸樣ヲ説明セシ迄ナレハ之ヲ以テ被告ノ所爲ト云フヲ得ス又茂兵衛ハ被告ノ  
敵手ナレハ其調書ヲ以テ被告ヲ有罪視スルヲ得ス右ノ事實ナルニヨリ會議局ノ判決ハ不法  
ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニアリ

原檢事補若井平世上告ノ不理ナルヲ逐一辨駁シ原判決ハ相當ナル旨答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告及ヒ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ

上告ノ理由トスル處會議局ハ被告ノ陳述ヲ誤認セリト云ヒ又證人ハ前言ヲ變更シテ云々證  
言シタリト云ヒ又醫師ノ檢案書及被害者茂兵衛ノ調書等ハ犯罪ノ事實ヲ斷了スルニ足ラサ  
ルモノナリト云フニアリテ專任事實ノ認定上ニ對シ採證ノ當否如何ヲ論難スルニ過キス抑  
各種ノ證據ニ依リ取捨採擇スルハ一ニ承審官ノ職權内ナルヲ以テ徒ラニ不服ヲ訴フルモ破  
毀ヲ求ムル上告ノ原由ト爲スヲ得ス何ントナレハ治罪法第四百十條ニ上告ヲ爲シ得ル場合

キ定メタル項目ニ適合セサル訴旨ナレハナリ因テ上告ノ趣旨相立サルモノトス  
右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本件上告ヲ棄却スルモノナリ  
第一千五百五十二號

○判文(謀殺) 明治十六年一月七日上告  
同 十七年四月三十日發付

福岡縣筑後國山門郡百丁村  
平民傘骨造

目野 丑太郎

明治十六年十二月  
三十年十月

右丑太郎カ謀殺被告事件ニ付明治十六年十二月六日福岡重罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十六  
年五月二十五日夜會テ離別シタル妻樺島カメ宅ニ到リ同人ヲ謀殺シ且其母ユクヲ故殺シタ  
ルモノト判定シ刑法第二百九十二條同第二百九十六條ニ依リ尙ホ同第百條ニ照シ一ノ重キ  
謀殺ノ罪ニ從ヒ死刑ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セス被告丑太郎ハ上告ヲナシタリ其要領  
ハ被告ハ豫メ謀テ殺害ヲ爲シタルモノニアラスシテ全ク被害者ヨリ罵詈侮辱ヲ受ケ激怒ニ  
堪カタク臨時殺意ヲ生シ二人ヲ殺害シタルモノナルニ刑法第二百九十二條ヲ適施セラレタ  
ルハ不當ナリト云フニアリ原裁判所檢察官ハ被告ノ上告ハ非理ニシテ原裁判ハ允當ナル旨  
答辨セリ茲ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ式ヲ履行シ代官野平穰ノ陳述ヲ聽ク  
ニ上告趣旨ノ如ク被告ノ行爲ハ故殺ナルニ謀殺トナシタルハ擬律錯誤ナルノミナラス之ヲ  
謀殺トスルモ原裁判言渡ニ謀殺ノ理由ヲ示サ、ルハ不當ナリト云フノ趣旨ニ過キス又立會



檢事林三介ハ被告上告ノ趣旨及ヒ代言人ノ陳述ハ共ニ其理由ナキ旨陳述セリ因テ之ヲ判決スル左ノ如シ

抑被告カ行爲ノ故殺ナル乎將タ謀殺ナル乎定ムルハ所謂事實ノ認定ニシテ即チ原裁判官特有ノ職權ニ歸スルモノナルコト今ヤ被告上告ノ趣旨及ヒ代言人ノ陳述ハ專ラ其實判定ノ當否ヲ批難シ之ヲ動カサント試ムルニ過キサレハ以テ上告ノ原由トナスヲ得ヌ况ンヤ之ヲ一件書類ニ徵スルモカメ女ヲ謀殺シタル事實明灼ナルコト於テチヤ又代言人コト於テ原判文ニ謀殺ノ理由ヲ付セサルハ不當ナリト云フト雖ヒ該言渡書ヲ監査スルコト(カメヲ殺害セントノ惡意ヲ決シ一應自宅ニ歸リ所藏スル所ノ短刀ヲ携ヘ云々)ト充分其理由ヲ明示シアリテ毫モ間然スル所ナケレハ此論旨モ亦相立ストス

第一千五百三十三號

○判文(嬰兒殺害) 明治十六年三月十五日上告 同 十七年四月三十日發付

宮崎縣日向國臼杵郡細島町  
四百五番戶平民伊三郎妻  
兒 玉 五 子  
明治十五年十二月  
三十二年五月  
同縣同國同郡同町三百三十

四番戶平民產婆

大 原 マ ッ

同八十一年一月

同縣同國同郡同町五百四十

五番戶平民

兒 玉 カ ッ

同六十二年十一月

右キチ外二名カ嬰兒殺害被告事件ノ豫審終結言渡ニ對スル故障コ付キ明治十五年十二月七日宮崎縣輕罪裁判所會議局ニ於テ爲シタル判決ニ對シ被告三名ハ異議ヲ申立タルヲ以テ明治十五年十二月二十五日尙ホ又同會議局ニ於テ前判決ハ既ニ確定シタルヲ以テ該異議ノ申立ハ之ヲ認可スルノ限ニアラサル旨言渡アリ然ルニ被告三名ハ右判決ヲ不當ナリトシ上告ヲ爲スノ要領ハ嚮キニ原檢察官コ於テ本件豫審終結言渡ニ對シ故障ヲ申立シ處原裁判所書記ハ治罪法第二百四十八條ニ違ヒ其故障趣意書ヲ對手人タル被告ニ送達セサルニ原會議局ハ之レカ送達如何ニ拘ハラヌ曖昧ナル臨檢調書ヲ採リ被告ノ陳述ヲ付ケ有罪ノ判決ヲ與エラレタルハ不當ナルヲ以テ即チ又異議ヲ申立タルコト之ヲ認可セラレサルハ不服ナリ依テ原會議局カ前後ノ判決トモ併セテ旨ヲ破毀セラレノヲ求ムト云フニ在リ原檢察官ハ上告ノ理由ナキ旨ヲ答辨セリ

爰ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ



本案訴訟書類ヲ監査スルニ原會議局ニ於テ嚮キニ檢察官ノ故障申立ニ對シ之レカ判決言渡  
ヲ爲シタルハ明治十五年十二月七日ニシテ被告人等ハ同月十七日之レカ言渡書ノ送達ヲ受  
ケタルモノナレハ若シ其言渡ニ對シ不服ノ點アルナレハ治罪法第四百十四條ノ期限內ニ在  
テ上告ヲ爲スヘキニ乃チ然ラスシテ反テ會議局ニ異議ノ申立ヲ爲シ即チ法律外ノ上訴ヲ試  
ミタルモノナレハ今ヤ會議局カ之ヲ認可セサルヲ不當トシ上告スルモ治罪法第四百十條各  
項ノ規定外ニ涉リ上告ノ原由ト爲スヲ得サルモノナルニ付キ同法第四百二十七條ニ從ヒ本  
案上告ハ之ヲ棄却スルモノ也

第千五百五十四號

○判文(証告) 明治十六年四月十日 上告  
同 十七年四月三十日 發付

秋田縣羽後國雄勝郡森村平  
民盲目按摩渡世

菊地留吉

同縣同國同郡湯澤町平民針  
醫業盲人

高橋秀益

同縣同國同郡森村平民  
同縣同國同郡湯澤町士族代

新山吉治

明治十六年一月  
三十八歲

同縣同國同郡湯澤町士族代

言人

引田忠邦

明治十六年一月  
四十四歲

同縣同國同郡森村平民戶長

新山平右衛門

明治十六年一月  
三十九歲

右菊地留吉外四名カ墮胎証告被告事件ニ付キ明治十六年一月十一日大曲治安裁判所ニ開キ  
タル秋田輕罪裁判所ニ於テ菊地留吉ニ對シ舊法中ノ犯罪ナルヲ以テ新舊法ヲ比照シ舊法ハ  
訴訟律証告條又改定律例第百十四條ニ據リ懲役百日名例律老少癩疾收贖條ニ照スニ懲役百  
日ノ收贖金貳圓五十錢トス新法ハ刑法第三百五十五條及ヒ第二百二十條而テ其第二項ニ據  
ルニ六月以上二年以下ノ重禁錮四圓以上四十圓以下ノ罰金トス因テ舊法ノ輕キ罰金貳圓五  
十錢ニ處ヌ又高橋秀益ニ對シテハ同シ舊法中ノ犯罪ナルヲ以テ新舊法ヲ比照シ舊法ハ訴訟  
律証告條又改定律例第百十四條ニ據リ懲役百日名例律老少癩疾收贖條ニ照シ懲役百日ノ收  
贖金貳圓五十錢トス新法ハ刑法第三百五十五條及第二百二十條而シテ其第二項ニ據リ六月以  
上二年以下ノ重禁錮四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ該ル仍ホ刑法第百五條ヲ適用シ舊法ハ新



法ヨリ輕キヲ以テ舊法ニ據リ從犯トシ本刑ニ一等ヲ減シ收購ニ替ヘ罰金貳圓貳拾五錢ニ處  
 ス又新山吉治ニ對シテハ舊法中ノ犯罪ナルヲ以テ新舊法ヲ比照シ舊法ハ訴訟律教唆詞訟條  
 及改定律例第百十四條ニ據リ懲役百日又夫妻ヲ誣告ス云々誣スル所ノ罪ニ三等ヲ減スト  
 リ本刑ニ三等ヲ減スレハ懲役七十トス新法ハ刑法第百五條及ヒ刑法第三百三十一條ニ依  
 リ一月以上六月以下ノ重禁錮トス舊法ハ新法ノ刑期內ニアルヲ以テ二月十日ヲ長期トシ新  
 法ニ因リ處斷スヘキモノ尙情狀ヲ原諒シ刑法第九十條ニ照シ本刑ニ二等ヲ減シ二十日ノ重  
 禁錮ニ處ス又引田忠邦ニ對シテハ舊法中ノ犯罪ナルヲ以テ新舊法ヲ比照シ舊法ハ訴訟律教  
 唆詞訟條及ヒ改定律例第百十四條ニ據リ懲役百日トス新法ハ刑法第百五條及同第三百三十  
 一條ニ據リ一月以上六月以下ノ重禁錮トス舊法ハ新法ノ刑期內ニアルヲ以テ三月十日ヲ長  
 期トナシ新法ニ因リ處斷スヘキモノ尙情狀ヲ原諒シ刑法第九十條ニ照シ本刑ニ二等ヲ減シ  
 二十日ノ重禁錮ニ處ス又新山平右衛門ニ對シテハ舊法中ノ犯罪ナルモ偽證ノ所爲ハ新法實  
 施後ニアリテ二罪俱發シタルモノ舊法詞訟教唆條及誣告條改定律例第百十四條ノ刑ハ偽證  
 ノ刑ヨリ輕キヲ以テ舊法ヲ比照セヌ刑法第百條ニ因リ一ノ重キ刑法第二百十八條第二項ニ  
 照シ三月十日ノ重禁錮五圓ノ罰金ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ被告五名ハ上告ヲ爲シタ  
 リ被告留吉ニ於テハ新山儀兵衛ノ依頼ヲ肯ヒ之ヲ秀益ニ移牒シ被告秀益ハ之ヲ諾シ墮胎ノ  
 技術ヲ施シ遂ニ「ハッ」チシテ墮胎ニ至ラシメタルモノナルヲ以テ俱ニ之ヲ自首シタルニ其  
 事實ヲ審究セヌ輕忽ニモ新山儀兵衛「ハッ」ノ言ヲ片信シ不當ナル醫師ノ鑑定書ニ眩惑シテ  
 不實ノ「ハッ」以テ人ヲ誣告セシモノト斷定セラレシハ事實ニ背クト又平右衛門ハ原ト新山吉

治トハ本末ノ間柄ナルヲ以テ詞訟上ニ付財政上ノ依托ヲ受ケタルモ吉治留吉秀益等ヲ斂助  
 教唆等爲シタル「ハッ」殊ニ「ハッ」ノ墮胎シタルハ實際ニシテ且偽證等ヲ爲シタルモノニ非  
 サルニ儀兵衛「ハッ」ノ言ヲ信シ之ヲ教唆偽證ヲ爲シタルモノトシ處斷セラレタルハ不當ナ  
 リ假ニ其犯罪者トスルモ明治十四年ノ自首ナレハ新舊法ヲ比照シ刑法第百條ニ照シ一ノ重  
 キ偽證罪ニ依レハ一月以上ナルヲ以テ輕キニ從フヘキチ舊法ノ刑期三月十日ニ處セラレタ  
 ルハ擬律錯誤ナリト又吉治ハ「己」不在ノ際妻「ハッ」カ新山儀兵衛ト姦通ノ末懷妊セシテ憚  
 リ之ヲ留吉等ニ計リ墮胎セシ風聞アルヲ以テ搜查スルコ果シテ眞ナルヲ以テ告訴シタルニ  
 之ヲ證據不充分トシテ却テ「ハッ」ノ遁辭ヲ信シ醫師ノ鑑定書ヲ證トシ誣告者ト斷定セラレ  
 シハ事實ニ背キ假リニ之レヲ適實ナリトスルモ所犯新法實施以前ニ在レハ新舊法ヲ比照シ  
 輕キ新法ニ從ヒ十五日ノ重禁錮ニ相當スヘキチ二十日ニ處セラレタルハ擬律錯誤ナリト又  
 忠邦ハ吉治秀益留吉等ヲ教唆シ不實ノ自首等爲サシメタル「ハッ」己レハ常ニ代書ヲ以テ業  
 トスルモノナレハ依頼ニ依テ其事實ヲ聽キ取り其自首狀ヲ認メ與ヘタルモノニシテ其自首  
 カ不實ナルモ忠邦ノ關スル處ニ非サルニ之ヲ教唆者ト裁定サレシハ決シテ敬服スル能ハサ  
 ルノミナラヌ假リニ其罪アリトセハ所犯新法實施以前ニ在レハ新舊法ヲ比照シ士族ナルヲ  
 以テ禁獄ニ處セラルヘキモノナリ又之ヲ新法ニ依ルヘキモノトセハ刑法第三百三十一條ニ  
 依リ尙同第九十條ニ照シ酌減シテ二等ヲ減ストアレハ重禁錮十五日ヲ以テ相當ナルニ二十  
 日トシタルハ擬律ニ錯誤アリト云フニ在リ對手人原裁判所檢事代理警部補三浦忠雄ハ原裁  
 判允當ニシテ上告ノ非理ナル「ハッ」答辨セリ



愛ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ本院檢事林三介ハ上告ニ對スル意見ヲ陳シ且附帶上告ヲ爲シテ曰ク被告等カ上告ハ判定上ノ事實及採證ノ可否ヲ批難シ刑期計算上錯誤アルモノ、如ク申立ルモ誤解ノ致ス處ナレハ上告ノ原由ナキモ菊地留吉高橋秀益ノ兩人ニ對シテハ新法即チ刑法第三百三十條及ヒ第三百三十一條ヲモ適用セシテ輕罪ニ陷ラシムル爲メ輕告セシモノトシ刑法第二百二十條第二ノ例ニ照シテ處斷シタルハ速了ニ失シタルノミナラス該兩人ハ癡疾者ナルヲ以テ舊法ニ於テハ收贖例圖ニ依リ明治十四年第八十一號公布第七條第二項ニ原キ舊法ノ收贖ニ從フヘキヲ勿論ナルニ原裁判玆ニ出ス罰金ニ換ヘタルノミナラス秀益ニ對シテハ其躬自ラ罪ヲ犯セシ事實ヲ認メナカラ刑法第四百四條ニ依ラスシテ却テ其第五百五條ヲ適用シタルハ俱ニ擬律ノ錯誤ナリト又新山吉治引田忠邦ノ兩人ニ對シテハ輕告罪ノ本條即チ刑法第三百五十五條及ヒ第二百二十條等ヲ明示セサリシハ法律ノ理由ニ不備アル失當ノ裁判ナリ何トナレハ該兩條ヲ明示スルハ輕告罪ヲ斷スルニ付テノ一大要件ニシテ之ヲ缺クハ其罪ヲ論決スルコト能ハサルヤ顯著タレハ也加之忠邦カ訴告ナス如ク同人ハ其身分十族タルヲ以テ舊法ニ從ヒ處斷スル時ハ明治十四年第八十一號公布第二條ニ原キ開刑律ニ依リ禁獄ニ該當スヘキニ原裁判玆ニ出ス重禁錮二十日ニ處セシハ亦擬律錯誤ナリト又新山平右衛門ニ對シテハ輕告罪ノ外尙ホ別ニ菊地留吉等ノ被告事件ニ付證人トシテ喚問ヲ受ケ右留吉等ヲ曲庇セン爲メ偽證ヲ爲シタルノ罪アリトシ刑法第二百十八條ニ依リ處斷セシハ則チ法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シタルハ失當ノ裁判タルヲ免レス何ントナレハ該徵喚ノ當時未ダ平右衛門ノ罪跡發露セサルヲ以テ之ヲ證人トシテ訊問シタ

ルモノト留吉等ノ共犯タレハ其正實ニ陳述ヲ爲サ、ル逆敢テ之ヲ怪シムコト足ラサル而已ナラス其自己ノ犯跡ヲ隱蔽セント欲スルハ犯人ノ常情ナリ然テハ此際詐言ヲ呈スルモ刑法ニ所謂偽證罪ヲ組成セサルヤ敢テ言ヲ俟タサル也加之其輕告罪ニ付新舊ノ法ヲ比照セサリシモ是亦擬律ノ錯誤ナルヲ以テ原裁判ノ破毀ヲ求ムト因テ之ヲ審案スルニ被告五名カ上告論旨ハ承察官ノ爲シタル事實ノ判定及採證ノ當否ヲ難告シ加フルニ平右衛門吉治忠邦ノ如キハ刑期計算上ニ違算アリ又ハ擬律錯誤アルモノ、如ク論疏スルモ之ヲ檢スルニ其刑期上敢テ錯誤アルコトナク畢竟法律誤解ノ致ス所ニシテ到底治罪法第四百十條ノ各項目ニ適合スル原由ナキヲ以テ相立タサルモノトス然レハ本院檢事附帶上告ノ旨趣ハ其理由ナキニシモ非サレハ先ツ原判文ニ據リ訴訟書類ヲ查閱スルニ該被告事件タル元是新法施行以前新山儀兵衛新山「ハツ」ノ兩人ヲ陷害セント輕告シタリトノ一個ノ犯罪事件タル得テ知ルヘキナリ然リ而シテ輕告罪ノ如キハ故意ニ無實ノ事ヲ舉ケ人ヲ罪陷セン爲メニ告訴又ハ告發ヲ爲シ無辜人ヲ誣ニルヲ以テ始メテ構造スヘキモノナルニ留吉秀益平右衛門等ニ言渡シタル判文ニハ儀兵衛「ハツ」ヲ陷害セン爲メ云々トアツテ稍其緒ナキニアラサレハ吉治忠邦等ノ判文ニハ不實ノ自首ヲ爲サシメ云々トノミニシテ輕告罪ノ組成スヘキ事項ハ毫モ明掲アルコトナシ素ヨリ不實ノ自首ヲ爲サシメタリトテ直チニ輕告犯トハ爲スヲ得ス果シテ其自首事實ナキ上ハ又輕告ノ事實ナキヤモ知ル可ラス本件ニ付テハ此樞要ナル事實ヲ缺キタルノミナラス今假リニ忠邦吉次等ヲ輕告シタルモノトセハ留吉等ノ共犯者タルモノ、如シ果シテ然ラハ該被告五名ノ中ニハ自カラ首從ノ區別ナカルヘカラス然ルニ原判文菊地留吉ニ對シテ



ハ(被告人ハ森村新山儀兵衛及新山「ハッ」ヲ陷害セシメ云々墮胎ヲ高橋秀益方ヘ周旋シタル旨明治十四年九月九日湯澤警察署へ高橋秀益ト共ニ不實ノ自首ニ及ヒタルモノナリトス)ト又高橋秀益ニ對シ(被告人ハ云々明治十四年九月七日湯澤警察署へ自首致シタルハ新山吉治新山平右衛門菊地留吉等ノ依頼ヲ受ケ新山儀兵衛及ヒ新山「ハッ」ヲ陷害セシメ云々引田嘉八引田忠邦等ト謀リ不實ノ自首ニ及ヒタル者ナリトス)ト新山吉治ニ對シハ(被告人ハ云々菊地留吉新山平右衛門等ノ教唆ニ乘シ高橋秀益ヲ教唆シ云々明治十四年九月七日菊地留吉高橋秀益等ヲシテ湯澤警察署へ不實ノ自首ヲ爲シシメタルモノナリトス)又引田忠邦ニ對シテハ(被告人ハ雄勝郡森村新山吉治高橋秀益菊地留吉等ヲ教唆シ云々明治十四年九月七日湯澤警察署へ不實ノ自首ヲ爲シシメ其詞狀ヲ作リタル者ナリトス)新山平右衛門ニ對シハ(被告人ハ云々本夫新山吉治ヲ教唆シ菊地留吉高橋秀益等ヲ教唆シ新山儀兵衛新山「ハッ」ヲ陷害セシメ爲メ菊地留吉高橋秀益ヲシテ明治十四年九月七日湯澤警察署へ不實ノ自首ヲ爲シシメタルノミナラス)云々トアリテ孰レカ首犯タルカ將テ孰レカ從犯ナルカ毫モ視ルニ由ナク實ニ是等ハ事實理由ノ不備且阻礙アル不法ノ裁判タルヲ免レテ何ントナレハ本件ノ如キ舊法犯罪ニ係ルキハ新律綱領名例律共犯罪分首從條ニ依テ刑ニ輕重ヲ生スルモノニシテ實ニ欠ク可カラサルノ事實ナレハナリ然レモ原裁判是等ノ點ヲ明示セズ輕重ヲ刑ヲ適行シテ斷了シタルハ治罪法第二百四條ノ規定ニ背キタル不法ノ裁判ナリトス因テ先ツ是等ノ事實ヲ判定シタル上ニ非ラサレハ未ダ擬律ノ適否ヲ鑑別スル能ハサルモノト判定ス

右辨明ノ理由ナルヲ以テ本院檢事附帶上告論旨ニ對シテハ別ニ辨明ヲ與ヘズ治罪法第四百

二十八條ニ則リ原裁判ヲ破毀シ更ニ適法ノ裁判ヲ受ケシムル爲メ山形輕罪裁判所ニ移スモノ也

第一千五百五十五號

○判文(委託物費消)明治十六年三月十六日上告  
同 十七年四月三十日發付

宮崎縣日向國宮崎郡下河原  
町六十四番戶平民大工職

黒木長次郎

明治十五年十二月廿九年十月

右長次郎カ委託金費消ノ被告事件ニ付明治十五年十二月十二日宮崎輕罪裁判所ニ於テ刑法第二百九十四條第三百九十四條ニ依リ重禁錮五月罰金拾圓監視十月ノ刑ヲ言渡タル裁判ニ對シ被告長次郎上告ヲ爲シ其趣意ハ頗ル冗長ニ沙ルト雖モ原裁判官ノ判定シタル事實ト相違スル旨ヲ論疏スルノミヨ止マレリ

原裁判所檢事補毛利雄藏ハ被告人カ上告趣意書ハ其理由トスル所只事實ヲ舉グルノミヨシテ治罪法第四百十條ニ定ムル所ノモノアラサレハ其理由ナキモノト思料ス然レモ原裁判ハ其當ヲ得サルモノアリ抑本件ハ委託ノ物品ヲ費消シタル事實ナレハ刑法第三百九十五條ヲ適用スヘキニ同第三百九十四條ヲ適施シタルハ擬律ノ錯誤ナリ若シ之ヲ詐欺取財ノ情狀アリトセハ其理由ヲ付セサル可カラズ又被告長次郎ハ證書ヲ詐欺シ其證ヲ以テ駒山音市ナルモノヲ詐取シタルモノ、如ク言渡スト雖モ長次郎カ證書及ヒ金圓ヲ詐取シタル事ノ理由ニ阻



駮スルヲ以テ治罪法第四百十八條第四百十九條ニ從ヒ答辨スト云フコアリ  
 茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽クニ被告カ上告ノ旨趣ハ其理  
 由ナキモノト思考ス又原檢察官答辨ノ後項ニ至リ事實ノ理由ヲ付セヌ又理由ニ齟齬アルト  
 云フモ其旨趣前後錯雜ニ涉リ原裁判ノ欠點アルト云フ理由分明ナラスト陳述シ且附帶上告  
 ナ爲シテ曰ク該裁判言渡中(其證ヲ以テ駒山音市ヲ詐取シ)トアルハ其音市ヲ欺キ證書ヲ詐  
 取シタルノ謂ヒカ金員ヲ詐取シタルノ謂カ一モ是等ノ理由ヲ知ルニ由ナシ是即チ言渡ニ付  
 理由ヲ付セサル不法ノ裁判ナルヲ以テ破毀ヲ請求スト因テ之ヲ審案スルニ被告上告ノ旨趣  
 ハ治罪法第四百十條ノ規定外ニ涉ルヲ以テ其理由ト爲ヌ得スト雖モ今原判文ヲ閱查スル  
 ニ(委託ノ金額費消事件檢察官ノ公訴ニ依リ云々)因幡與次郎方ニ至リ駒山音市ニ貸付金ノ  
 該借用證書一見セシコトヲ要求シ而シテ該證書ヲ詐欺シ其證ヲ以テ駒山音市ヲ詐取シタルモ  
 ノト認定ストアリテ其證書ヲ詐欺スルトハ與次郎ヨリ證書ヲ詐取シタルト云ヒナルカ其  
 理由詳カナラス且駒山音市ヲ詐取シタルハ如何ナル理由ナルヤ其事實分明ナラス是等ノ  
 事實ヲ確認セサレハ未タ以テ擬律ノ當否ヲ鑑査スルニ由ナシ即チ本院檢事附帶上告旨趣ノ  
 如ク事實ノ理由ヲ付セサル不法ノ裁判ナリトス因テ治罪法第四百二十八條ニ依リ原裁判ヲ  
 破毀シ鹿兒島輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムルモノナリ

第一千五百五十六號

○判文(脱籍)同 明治十六年五月九日上告  
十七年四月三十日發付

高知縣土佐國吾川郡安居村

平民山中覺馬方滞在

姓不詳 仙次

明治十六年四月  
二十五年

明治十六年四月十九日高知輕罪裁判所ニ於テ被告仙次カ即今無籍ナルハ明瞭ナリト雖モ法  
 律ニ於テ之ヲ罰ス可キ正條ナキヲ以テ刑法第二條ニ依リ無罪ト言渡タル裁判ニ對シ同裁判  
 所檢事補青木幹造ハ上告ヲ爲シテ其要旨ハ被告カ脱籍ノ所爲ヲ罰スルノ法律ハ明治六年  
 第四百七十三號布告及ヒ明治十五年第七十二號布告第四條ニ照シ灼然其正條アリ然リ而シテ  
 右第四百七十三號布告ハ明治十年第七十六號布告逃亡律例刪除ノ外ニ在テ今尙ホ現存セルモ  
 ノナルニ原裁判官ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ擬律ノ錯誤アル不法ノ裁判ナリト云フニ  
 在リ

爰ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ踐行シ判決ヲ與フルコト左ノ如シ  
 抑脱籍者處分方ニ付キ明治六年第四百七十三號布告ノ末文ニ律ニ照シ處分可致事トアルハ逃  
 亡律例ニ依リ處斷ス可シト謂フノ義ナリトス果シテ然レハ明治十年第七十六號布告ヲ以テ  
 右逃亡律例ヲ刪除セシタル以上ハ之ヲ罰ス可キ正條ナキヲ以テ右第四百七十三號布告ノ制  
 裁モ自カラ消滅ニ歸シタルモノナルコト論ヲ待タズトス此ヲ以テ原裁判官ニ於テ本案ノ事實  
 ニ對シ之ヲ罰ス可キ法條ナシトシ無罪ヲ言渡タルハ固トニ相當ノ裁判ニシテ上告論旨ハ其  
 理由ナキニ依リ治罪法第四百二十七條ノ規則ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノ也

第一千五百五十七號



○判文(富籤興行)明治十六年五月廿六日上告  
同十七年四月三十日發付

五九四

福岡縣筑後國上妻郡高塚村  
平民醫業

橋 爪 立 民

明治十六年五月  
四十九年三月

同縣同國同郡酒井田村平民

小學校授業生

繩口節次郎

明治十六年五月  
三十五年十一月

右立民外一名カ富籤興行及購賣被告事件ニ付明治十六年五月三日福岡縣裁判所久留米支  
廳ニ於テ刑法第二百六十二條及明治十五年第二十五號布告第二條ニ依リ刑法第百條三項ニ  
照シ一ノ重キ同法第二百六十二條ニ從ヒ各重禁錮二月ニ處シ罰金三十圓ヲ附加スト旨渡シ  
タル裁判ニ對シ被告兩名カ上告シタル要旨ハ被告等カ加入シタル永好社ナル者ハ同志相謀  
テ出金シ抽籤法ヲ設ケ當籤者ヲ選テ之ヲ使用セシメ又追々之レヲ掛戻サシメ以テ金融ヲ  
爲シタル尋常ノ議會ニテ僥倖ヲ目的トスル富籤講トハ大ニ殊別ナルヲ以テ刑法ノ制裁ヲ  
受クヘキモノニ非サルヲ代人ノミ差出シ實際ヲモ知得セサル當籤者諸富武平江崎文平等カ  
各符合セサル陳述且富札トハ大ニ主義ヲ異ニシ講席ニ用ユル圖ヲ證據トナシ輒シ富ヲ興行  
シタル者トナシ且購賣ノ事實ヲ揭ケヌ之ヲ買取タルモノト斷定セラレタルハ不當ナリト云

フニ在リ同裁判所檢事補野中宗貞ハ原裁判適當ニシテ上告ノ理由ナキ旨ヲ答辨セリ  
爰ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告及臨席檢事澄川拙三ハ上告ニ對スル意見ヲ述ヘ且附帶上  
告ヲ爲シタル主旨ハ本案上告ハ共ニ事實認定ノ當否採證ノ如何ヲ非難スルニ過キサルヲ以  
テ棄却アリトシ望ム然レモ原判文中規則犯罪ニ係ル被告事件ノ一罪ヲ刑法第百條ニ照シ  
處斷セシハ明治十四年第七十二號公布ニ違フ即擬律錯誤ノ裁判ニシテ又被告共ハ其犯則ニ  
係ル富籤ノ社員ナル歟將タ單ニ其購賣者ノミニ止マル歟更ニ其事實理由ヲ明示セズ只永好  
第二社ノ富籤ニ加入シ云々トノミ揭ケ直ニ明治十五年第二十五號公布第二條ヲ適用セシハ  
事實理由ヲ欠キタル不當ノ裁判ナリトス因テ此二個ノ點ニ付附帶上告ヲ爲シ原裁判ノ破毀  
ヲ求ムト因テ之ヲ審案スルニ刑法ト他ノ法律規則ヲ犯シタル所爲ニハ刑法ノ數罪併發例ヲ  
用ヒス併科スヘキモノナルコトハ明治十四年第七十一號公布第五條ノ在ルアツテ明瞭ナレハ  
本件ノ如キ果シテ富ヲ興行シ且單ニ富籤ヲ購賣シタルノ二罪アルモノトモハ宜シク刑法第  
二百六十二條ト明治十五年第二十五號布告トヲ當行セテ併科スヘキハ勿論ナレモ原判文ヲ  
閱スルニ被告等カ富興行ヲ爲シタリト認定シタルノ事實ハ稍觀ルニ足ルト雖モ其富籤購賣  
ノ事實ニ至テハ唯(加之前同一ノ方法タル永好第二社ノ富籤ニ加入シタルコト明白ナルヲ以  
テ)ト而已ヨシ其富興行社員タルカ將單ニ購賣シタルニ止ルカ毫モ其事實ヲ視ルニ由ナク  
實ニ上告論旨ノ如ク事實不備ノ裁判タルヲ免カレヌ何ントナレハ加入シ云々ノ文詞アルヲ  
以テ視レハ購賣者ニ非スシテ反テ興行者タルヤ知ル可カラサレハナリ夫レ如斯法律適用ニ  
緊要ナル事實ノ理由ヲ明示セズシテ輒シ斷テシタルハ被告カ上告事實ヲ揭ケヌ云々ノ點及

五九五



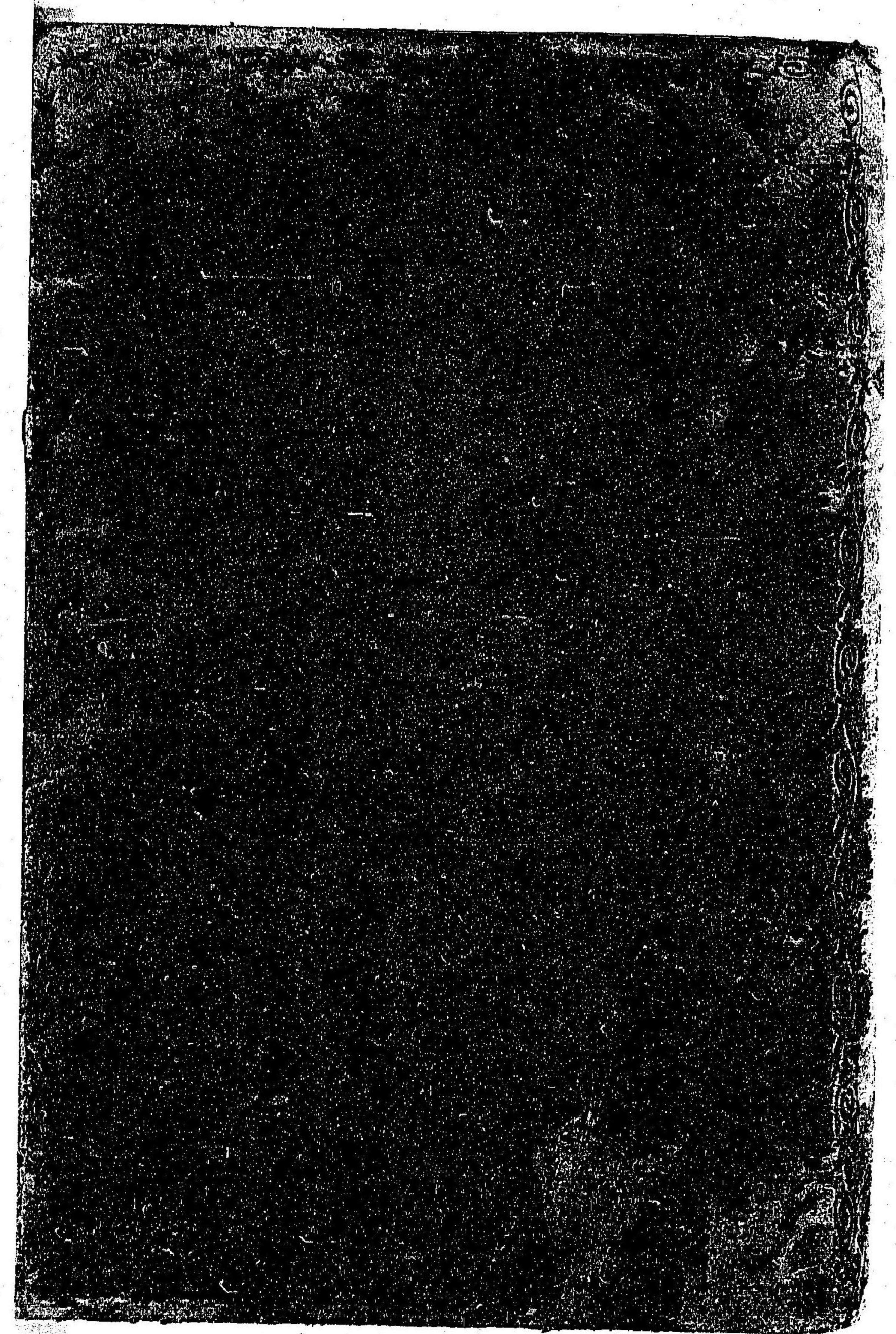
本院檢事附帶上告論旨ノ如ク治罪法第三百四條ノ規則ニ違反シタル不法ノ裁判ナルヲ以テ  
破毀スヘキモノト判定ス因テ右事實ヲ判定シタル上ニアラサレハ據律ノ當否ハ鑑別スルニ  
由ナン且其他ノ被告カ上告論旨ハ事實ノ判定及探證ノ當否ヲ論難スルニ止リ上告ノ原由ト  
ハナシ得サルモノナレハ相立ヨサルモノトス  
右前段ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ノ規定ニ則トリ原裁判ノ全部ヲ破毀シ佐賀  
輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムル者也

明治十八年三月二日所權屆



147  
/







東 京 圖 書 館

六  
一  
冊

一  
號

二  
架

三  
〇  
函

屬

類



